



平成26年度

第2回 みみらんどセミナー

絵本の読み聞かせの進め方

☆ 実施日時 ☆ 平成26年7月3日(木) 13:00~14:30

☆ テーマ ☆ 「絵本の読み聞かせの進め方」

☆ 講師 ☆ 福島県立聾学校福島分校 幼稚部
小西 真由美 教諭



第2回みみらんどセミナーは幼稚部の教室で行いました。福島分校や幼稚園の保護者の方々、保育士の方など多数のご参加をいただきました。

絵本の読み聞かせはおすすめです。絵本には「絵を読む」という言葉にもあるように、絵の雰囲気やひたりにながら互いのイメージを共有しながら楽しみ、日本語のリズムやひびきを耳で聞き、楽しく言葉を覚えられる良さがあります。

まずは環境づくりをしましょう。テレビ、ゲーム、タブレットなどはやめ、生活の中に読書タイムを作ったり、手に取りやすい場所に本を置いたりしてみましょう。子どもが、選んだ本に対して安心できるように「その絵本、お母さんも好きよ。」と言葉をかけることも大切です。大人も普段から子どもの前で本を読みましょう。

次に絵本の選び方ですが、本に「飛び級」はありません。その時その子の身の丈に合った本を選んでください。絵本には段階があり、①絵本を通して笑ったり歌ったりしながら楽しくやり取りできるもの(「いないいないばあ」など)、②子どもの興味関心・経験・四季や自然を題材にしたもの(「いちご」「どんぐりみつけた」など)、③繰り返し言葉や場面があるシンプルなお話(「おおきなかぶ」など)、④生きる知恵を授けてくれる昔話(「ももたろう」など)、と①から④に行くにしたがって内容が複雑になっていきます。今のお子さんに合わせて、混乱しない筋立てのものから選んであげてください(本の紹介は表1参照)。

最後に、読み聞かせのコツです。絵本を介して「コミュニケーション」することを大切にしてください。子どもの様子や反応を確かめながら絵を十分に見せ、日本語のリズムや音の響きを大切に一緒に絵本を楽しみましょう。作家のメッセージにとらわれなくて、子どもと向き合いながら柔軟にかかわることも大切です。また、子どもが気に入った絵本は何度でも読み聞かせてあげましょう。今どこを読んでいるか指を指しながら読んであげたり、子どもが違う所へ注目してもそのことについてやり取りをしてあげたりしましょう。読んでいる大人や一緒に聞いている子どもたち同士で、自分の気持ちと違って葛藤しながら話し合いができるのも良さの一つです(実際の読み聞かせ場面のビデオ視聴)。

参加者からは、「今まで言葉を一つ一つ大切に読んでいたか考えた。」「普段も読み聞かせをしているおかげで、自分の子どもは本が好きになり言葉も出始めている。家庭でもしっかり頑張らなくてはならないと思う。」といった感想が聞かれました。

表 1

＜おすすめの絵本＞

<p>やり取りや歌を介して楽しめるもの (目安：3歳)</p>	<p>興味関心・自然を題材にしたもの (目安：4歳)</p>
 <p>「もこもこ」「かくれんぼしましょ」 「よーいどん」「おはなしゆびさん」 「さつまのおいも」「いないいないばあ」 「ぐうちょきばあでなにつくろう」</p>	 <p>「いちご」「ながぐつぼこぼこ」 「おいしいおいしい」「あめふりくまのこ」 「いたいのいたいのとんでけ」 「いけのおと」「あめだあめだくわっくわっくわっ」</p>
<p>場面があるシンプルなお話 (目安：5歳)</p>	<p>生きる知恵を授けてくれる昔話 (目安：5歳)</p>
 <p>「おいもをどうぞ」「おおきなかぶ」 「グリーンマントのピーマンマン」「ぐりとぐら」 「てぶくろ」「りんごがたべたいねずみくん」 「三びきのやぎのがらがらどん」</p>	 <p>「ももたろう」「さるかに」 「いっすんぼうし」「にんぎょひめ」</p>